

CAPTURE AND RELEASE OF THE LAYSAN ALBATROSS
DIOMEDEA IMMUTABILIS IN SHIZUGAWA

HIROMI SATO

On 12th August 1985, an adult Laysan Albatross *Diomedea immutabilis* was captured accidentally on a timber road about 3 km inland from the Pacific Ocean in Shizugawa Miyagi prefecture. As the bird seemed to be exhausted, the auther fed it with raw fished for five days. Afterwards, the bird was put on a fishing boat on 17th August and released on 17th August and released on the Pacific Ocean (40° 36'N, 143° 19'W) bearing a metal ring lettered "Japan 120-00517".

64 Tokamachi Shizugawa-cho, Miyagi 986-07

1985年10月3日 受理

1. 〒986-07 宮城県本吉郡志津川町十日町64。(宮城県支部)

能登半島における
マヒワ *Carduelis spinus* 家族群の観察

美馬秀夫¹・時国公政²・国盛孝昭³

マヒワ *Carduelis spinus* は、日本産アトリ科のなかで最も小さい鳥で、多くは冬鳥として秋に渡来し、数羽から数十羽の群れで生活し、春に北方へ渡去する。北海道では少数が繁殖することが知られている(清棲 1965, 藤巻・川辺・飯嶋 1980, 日本野鳥の会 1980, 高田・黒沢・三浦 1981)。しかし、本州以南では繁殖記録はきわめて稀であり、巣立ち後の幼鳥を認めた中西 (1979), 湯浅, (1953), 清棲 (1965), 交尾を観察した黒田 (1948), 繁殖期のさえずりを記録した日本野鳥の会 (1980) などがあるにすぎない。

今回、筆者らは能登半島の柳田村で、巣立ち後間もない幼鳥を含むマヒワの家族群を観察したので報告する。

マヒワの家族群を観察したのは、1985年8月16日、25日、28日の3回である。

観察場所は、石川県鳳至(ふげし)郡柳田村合鹿(ごうろく)地内、能登半島の先端に近い丘陵地で、現在、柳田村植物公園(仮称)として整備中の区域の一角である。3日も、ウメやモモ、サクラの若木が植栽されている草地の周辺で見られた。標高は約200mで周囲はアカマツ林、コナラ林、水田となっている。

8月16日には、美馬と国盛が、マヒワ成鳥♂1羽と巣立ち後間もない幼鳥4十羽を確認した。他に、マヒワ♀ではないかと思われる成鳥1羽をみたが確認できなかった。幼鳥は成鳥と行動をともしていた。当日は、双眼鏡を持っていなかったため、肉眼での短時間の観察であるが、7~8mの距離で見ることができたので、幼鳥は小さく、大ききで明ら

かに成鳥と区別でき、尾羽は非常に短く、成鳥の半分にも満たないことを確認することができた。また、幼鳥の体色は全身うすい灰茶色という印象であった。飛翔力は乏しく、成鳥のあとを追った幼鳥達は、パタパタと3~4m飛んで、草地にもぐりこんでいった。

8月25日、国盛が同じ場所でマヒワの家族群を再発見し観察した。

8月28日早朝、時国と国盛が、観察と写真撮影のため現地調査を行い、植栽されたサクラの若木に10羽から成るマヒワの群れを見つけ、写真を撮影した。♂♀各1羽の成鳥が識別でき、他の8羽は体色にやや濃淡の差があるが、いずれの個体も、頭部と胸から下腹部にかけてがうすい灰茶色で、胸部には濃色の縦斑が目立ち、尾羽も成鳥と比べると短かった。しかし、8月16日に観察した巣立ち後間もないひなという

様子とは全く異なり、10日余りの間にすっかり成長していた。群れは警戒性に乏しく、サクラの実や草の種子を食べる様子をゆっくり観察することができた。

また、当日、付近の農家の人（鳥の識別にかなり詳しい）と植物公園の工事関係者から、夏の早い頃からマヒワが居つづけている、という情報を得た。

以上のことから、柳田村の観察地でマヒワが繁殖したものと考えられる。



図1. 観察地の位置。
Location of the observation area.



図3. マヒワの幼鳥。頭部、胸腹部は灰色で腹部には濃い斑点がある。(1985. 8. 28時国)
Fig.3. Juveniles of *C. spinus*.

文 献

- 藤巻裕蔵・川辺百樹・飯嶋良朗 1980 十勝の野鳥。日本野鳥の会十勝支部。
清棲幸保 1965 増補新訂版日本鳥類大図鑑I。講談社。
黒田長久 1948 青森県初夏の鳥界。野鳥13(6):1-5。春秋社。

- 中西悟堂 1979 後立山連峰縦走。定本野鳥記 6 : 63-133.
 日本野鳥の会 1980 鳥類繁殖地区調査1978. (財) 日本野鳥の会.
 高田勝・黒沢信道・三浦二郎 1981 根室地方の野鳥. 根室自然教育研究会.
 湯浅大多郎 1953 福島県の鳥. 日本野鳥の会郡山支部.

A FAMILY OF SISKINS *Carduelis spinus*
 OBSERVED IN NOTO PENINSULA

HIDEO MIMA¹, KOSEI TOKIKUNI² AND TAKAAKI KUNIMORI³

The siskin *Carduelis spinus* is a common winter visitor in Japan. A small population breeds in Hokkaido but there are very few breeding records in Honshu. In August 1985, We found two siskin adults (male and female) and several juveniles on the margin of a garden woods in Yanagida-mura, Noto Peninsula. The juveniles had pale grayish brown feathers and short tails. They flew after the adults but could not fly very far. Apparently they were a family and had bred near the observed area.

1. 4-11-42 wakunami, Kanazawa 920.
2. 62 mabu Otsu Tatsuruhama-machi, Kashima-gun 929-21.
3. village office, Yanagida-mura, Fugeshi-gun 928-03.

1985年10月8日受理

1. 〒920 金沢市涌波 4-11-42. (石川支部)
2. 〒929-21 鹿島郡田鶴浜町大津マ部62. (石川支部)
3. 〒928-03 鳳至郡柳田村 商工観光課.

宇部市におけるホオジロハクセキレイ
*Motacilla alba leucopsis*の繁殖

村田省吾¹・原田量介²

1983年7月と1984年6月に山口県宇部市川上男山(33°59'N, 131°16'E)でホオジロハクセキレイ *Motacilla alba leucopsis*の個体を観察したが、営巣個所は確認できなかった。その後、1985年5月1日、同地点で、営巣場所を確認したので報告する。

営巣環境は広大な真砂土の採取地で、採土の際に出た花崗岩(直径約30cm)が、その採取地の一角に山積されているその隙間であり、巣は地表より岩石の間、約50cm下であった。その周辺に営巣するキセキレイ *M. cinerea*、セグロセキレイ *M. grandis*の営巣位置は、切土あとの小さな岩棚、軒先や瓦の間隙などで、比較的浅く目につき易い位置にあるが、これらとはかなり異なった個所であり、巣材はキセキレイに見られる獣毛、こけ類の多量使用